

令和6年度第1回骨髄ドナー登録説明員養成研修会 開催結果

日 時	令和6年6月20日（木） 13：30～16：00
場 所	飛騨総合庁舎 厚生棟2階 第2会議室
参 加 者	公益財団法人日本骨髄バンク 地区普及広報委員 兼 岐阜骨髄献血希望者を募る会 代表 田中重勝 研修会申込者（一般7名）、岐阜県保健医療課 職員2名
内 容	
1. 骨髄バンクの現状及び課題について ・日本骨髄バンクの事業紹介 ・ドナー登録者の高齢化により10年で約23万人のドナー登録が解消となり、ドナープールは減少に転じる。 ・移植後成績が良く、ドナープールに長く留まることができる若年ドナー登録を増やすことが重要。 ・適合しても、都合がつかない等ドナー側の理由により、半数以上が初期段階でコーディネートを終了している。 →大学等学域でのドナーリクルート強化や適合者の勤務先に対するアプローチ、SMS・SNSを積極的に活用し発信している。 2. 岐阜県における骨髄バンクドナー登録会について ・月に10～20回程度、献血併行型ドナー登録会を実施。 ・県内には説明員が20人程度いるが、遠隔地に行くことができ、月に何回も活動しているのは2人。 ・説明員の活動時に実際に使用しているグッズの写真を見せながら、流れを説明。 3. 岐阜県における骨髄ドナーの登録状況及び取組みについて ・対象人口当たり登録者数の推移、助成制度、県保健所における取組みについて説明 4. 登録説明にかかるロールプレイング ・申込者同士でペアになり実施。参加者それぞれが説明業務を体験。 【説明時のポイント】 ・献血の合間の5分間で説明を終えることが目標 ・骨髄バンク作成の短縮マニュアルどおりに進めればOK ・必要性→要件→質疑応答→意思確認 時系列で流れを説明する ・曖昧な情報は伝えず、わからないことは骨髄バンクに確認して回答する	

【当日の様子】



骨髄バンクの説明中



ロールプレイングの様子



○研修会を終えて

- ・一般の参加者に加え、骨髄ドナー登録説明員として活動している方の参加もあった。ロールプレイング時には、説明方法について研修会参加者からの質疑も多く、充実した研修会となった。
- ・献血併行型ドナー登録会では、最初からドナー登録を希望している方ばかりではないため、ドナー登録に興味を持ってくれた方の負担とならないようなるべく短い時間で説明し、かつ副作用等重要な事項を正確に伝えることが大切であると学んだ。